

あやま たいけい じょうせきしゅう
誤りタグ体系- 定石集

つか ぼめん
1 1. 使う場面

- 英訳した直後に、どこが不自然かを短時間で分類したい場面
- 添削を受けた結果を、再発しやすい型ごとに整理したい場面
- 同じ誤りを繰り返しているのに、文法・語法・文体が混線して原因が見えなくなる場面

みわ かた
2 2. 見分け方

症状	付けるタグ	最初に確認すること
語の組み合わせが不自然	COL	その動詞・名詞・形容詞は自然に結び付くか
時間の流れが壊れる	TNS	出来事の前後関係と視点時は固定されているか
主語-動詞の骨格が不安定	CLS	主節は立っているか、従属節の接続は破綻していないか
前置詞がずれる	PRP	場所・時間・抽象関係をどの像で捉えているか
a / the / Ø がぶれる	ART	可算性・特定性・既知性のどれで判断すべきか
文法的には通るが場面に合わない	REG	会話・事務・学術のどの文体を要求されているか

Message

優先順位は COL > TNS > CLS > PRP > ART > REG である。複数タグが候補に見える場合でも、まず上位タグから確認する。

つか きじゅん
3 3. 使う基準

3.1 COL

- 対象: 連語、語彙選択、自然な言い回し
- 典型 症状 : make homework、is reviewed good のように、文法だけでは救えない不自然さがある
- 判断: 辞書で意味が通るかではなく、その場面で英語母語話者がその組み合わせを通常選ぶかを問う

Incorrect

The movie is reviewed good by everyone.

[COL] reviewed good という結合が不自然である。

Correct

The movie has good reviews from everyone.

[COL] have reviews と good reviews の連語が自然である。

3.2 TNS

- 対象: 時制、相、時間線の設計
- 典型 症状: 物語文で過去から現在へ流れる、先行完了が表現されない
- 判断: 英文を書く前に、出来事の順序と「いまどこから振り返っているか」を固定する

3.3 CLS

- 対象: 文型、主節、従属節、修飾関係
- 典型 症状: 主語が消える、接続詞の選択がずれて論理関係が壊れる
- 判断: まず [S-V] を確定し、そのあとで理由・条件・譲歩を従属節として接続する

3.4 PRP

- 対象: at / on / in / for / to などの前置詞
- 典型 症状: around the station と near the station の混同、in Monday のような核意味のずれ
- 判断: 前置詞を日本語の助詞に一对一で対応させず、空間像・時間像・目的関係のどれを表すかで選ぶ

3.5 ART

- 対象: a / an / the / Ø
- 典型 症状: bring thick coat、I went to the school のように、名詞句の設計がずれる
- 判断: 可算か、聞き手にとって特定されているか、すでに談話内で共有されているかを順に確認する

3.6 REG

- 対象: 丁寧度、文体、語彙水準
- 典型 症状: 事務メールで It's terrible. のような口語を使う、学術文で断定が強すぎる
- 判断: 内容が同じでも、相手・媒体・目的によって許容される語彙と文末は変わる

4 4. 運用手順

- 英訳を一読し、まず「意味は通るか」を確認する
- 意味が通るなら、COL → TNS → CLS → PRP → ART → REG の順で上から点検する
- 誤りごとに1箇所1主要タグを付ける
- 原因が連鎖している場合は、主因を主要タグ、従属的影響を補助メモに残す
- 採点の末尾で、同じタグの件数を集計し、再発率を記録する

Display

例

1. I discussed about the plan yesterday.
2. 主因: [PRP] discuss は通常 about を取らない
3. 補助メモ: [COL] discuss the plan をまとまりで覚える

5 5. 判別と注意点

5.1 5-A. COL と PRP の切り分け

- 動詞そのものがどの前置詞を従えるかまで含めて語法として固まっている場合は、まず COL を疑う
- 場所・時間・方向の像の選択がずれている場合は PRP を疑う

5.2 5-B. CLS と TNS の切り分け

- 時制の選択が主問題でも、主節そのものが崩れているなら CLS が先である
- 骨格が立っていて、時間線だけがずれるなら TNS である

5.3 5-C. ART は単独で見ない

- 冠詞の誤りは、名詞の可算性や連語の理解と結び付いていることが多い
- 例外や慣用を疑う前に、一般則で説明できないかを確認する

6 6. 落とし穴

- 全部を grammar 扱いは、自然さの問題まで文法で処理すると、COL と REG が見えなくなる
- 1 文に大量のタグをつける：診断の焦点がぼやけるため、主因を 1 つ決める
- REG を軽視する：意味が通ることと、場面に適合することは別問題である
- 誤りの数だけを数える：件数よりも「どのタグが反復しているか」を追跡しないと、学習課題が固定できない

7 7. 関連リンク

→ [講義](#) [英語学習の運用設計](#) [lecture](#) [english](#) [overview](#)
<https://study.bem130.com/lecture/english/overview/> 英語学習の運用設計-講義/

→ [定石集](#) [自己校正プロセス](#) [reference](#) [english](#) [error-taxonomy](#)
<https://study.bem130.com/reference/english/error-taxonomy/> 自己校正プロセス-定石集/

→ [問題演習](#) [自己採点と再翻訳](#) [exercise](#) [english](#) [translation](#)
<https://study.bem130.com/exercise/english/translation/> 自己採点と再翻訳-問題演習/

→ [問題演習](#) [タイムド英訳基礎](#) [exercise](#) [english](#) [translation](#)
<https://study.bem130.com/exercise/english/translation/タイムド英訳基礎-問題演習/>